



2.社会性報告

イノアックは、イノアックに関わるすべての人々から信頼される企業をめざします。

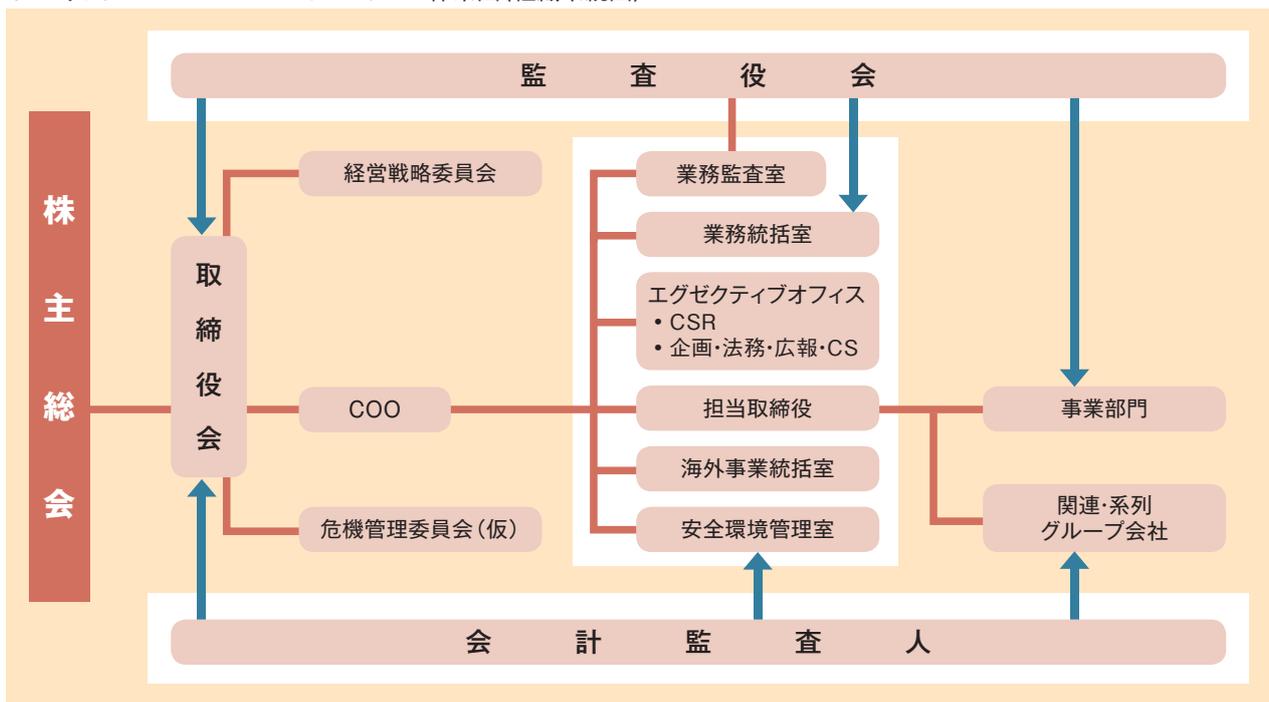
「挑戦」「CS」「誠実・信頼」「収益」「チームワーク」「責任」を行動指針と定め、社内外ともに裏表、偽りのない行動で「企業理念」を追求し、イノアックに関わるすべての人々から信頼され敬愛される企業を目指し、CSRへの取り組みを通じて、社会の持続的な発展に寄与して参りたいと考えております。

コーポレートガバナンス

●コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックグループはひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合素材という4つの素材をもとに、多くの事業を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出して社会へ貢献して参りました。さらに業務業績・企業価値・社会的信用性を高めるためにコーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けております。

イノアックグループのコーポレートガバナンス体系図(組織系統図)



■コーポレートガバナンス体制

イノアックコーポレーションでは、企業統治のため「監査役制度」をとっております。取締役と補佐する執行役員による職務執行内容を監査役3名が監督・監視しており、その内の2名は社外監査役で外部からの視点でもチェックしております。

■内部統制システム

職務の執行内容を法令及び定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

- コンプライアンス：コンプライアンス委員会活動と「企業行動規範」の全社員への教育(詳細は8ページ)
- 情報管理：文書管理規程により文書毎の保管部署、期間を定めた管理
- 企業集団としての管理体制：関連・系列会社の業務に関しても必要に応じ監査役による監査を実施
- リスク管理：各種リスクに対し経営会議でマネジメントしており必要に応じ危機管理委員会を開催

「マイナス情報ホットライン」の常設によるリスク情報の早期入手と対応体制を確保



コンプライアンス

●コンプライアンスへの取り組み

①コンプライアンスにおける基本的な考え方

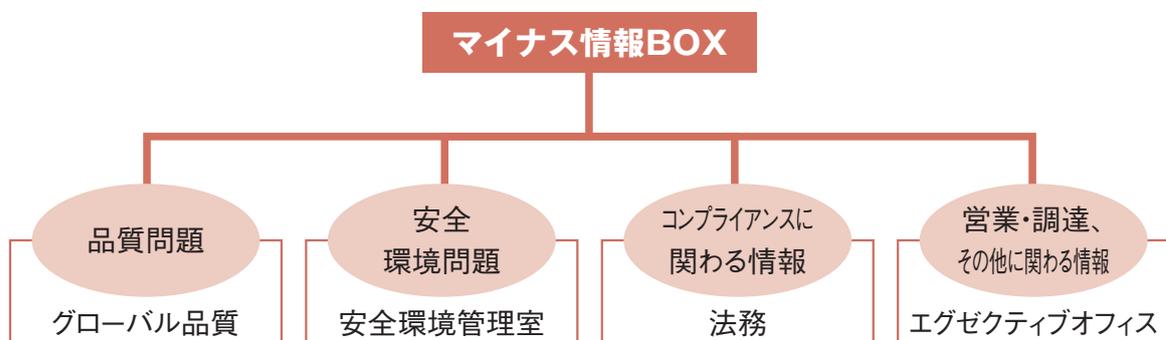
イノアックコーポレーションでは、コンプライアンスとは、法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理感を持って行動することと考えております。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待にこたえていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。そのため当社では、社内規程等の整備にとどまらず、従業員へのコンプライアンスの意識を高めるために営業担当者、新入社員、中途入社社員への法務研修等の充実を図ります。

②推進体制

当社は、2008年に「コンプライアンス管理規程」を定め、社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンスへの意識を高めるための体制作りを進めています。この取り組みの一環として、2010年からは、グループ会社へのコンプライアンス徹底の取り組みもスタートいたしました。当社の社内手続規程を、グループ会社にも適用可能なものへ改訂をおこなうとともに、あらためて各グループ会社への周知徹底を行いました。今後は新たな体制の定着にむけ、グループ間で情報の共有をはかりながら、体制の改善および強化に努めて参ります。

③相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのために当社では、法務グループを相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置致しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けないよう体制を整えています。



コンプライアンスに関する情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には迅速に対応し問題の拡大を未然に防ぐため、マイナス情報BOX(受付窓口)を設置しております。



調達



● 調達基本方針

1) グローバル調達活動の推進

イノアック世界拠点を活用したグローバルな調達活動と、パートナー関係の強化を図ります。

2) 法令・社会規範及び社内規程の順守

法令・社会規範及び社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。

3) 公平・公正で誠実な調達活動の推進

お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。

4) 地球環境に配慮した調達

イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行い環境保護に貢献します。

5) お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築

お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、技術力及び品質の維持・向上に努めます。

● 仕入先との双方向コミュニケーション強化

年2回、サプライヤー約100社にご参加いただき調達連絡会を実施しています。

内容は、生産情報の展開や品質の取り組み、コンプライアンス活動、安全活動、機密管理、有害物質管理など、継続テーマについてその内容の充実を図ると共に、経済情勢・今後の動向など情報の共有化を行い、サプライヤーとの連携を深めています。

また、品質向上の為の改善及びその意識の向上などをテーマとして、勉強会・講演会を年2回、改善事例発表会を年1回開催し、企業レベル向上のための活動を行っております。



講演会風景



調達連絡会風景

● 環境に配慮した調達

当社では、地球環境に配慮した調達活動推進のため、イノアックグループの製品を構成するすべての部材・材料及び製造時に使用される材料の調達において「イノアックグリーン調達基準」に基づき、含有禁止物質の不使用及び管理物質の管理・削減を継続的に実施しています。

また、サプライヤーの皆様におきましても、持続可能な社会の構築に向けて、当社グリーン調達へのご理解とご協力をお願いするとともに、これまでの欧州ELV規制、ROHS指令等に加え、欧州REACH規制等新たな環境規制に対する確認分析等の取り組みを一体となって進めています。

● コンプライアンスの社内教育活動

当社のコンプライアンスに関する基本方針に基づき、調達活動においても「法令、社会規範、倫理の順守を最優先する」という基本理念をもとにした社内教育活動を実施しています。

基本取引契約に関し、調達担当者を対象に、その取引内容・機密保持・権利・義務などの内容についての社内教育、また契約厳守・倫理順守の社内教育会などの活動を通じてコンプライアンスの周知徹底と促進を図っています。



従業員に対する取り組み

●人材育成

グローバル人事総務部では、イノアックグループの従業員の能力を高め、成長できる場を与えていくために「教育体系図」を毎年見直しを加えながら作成しています。これは、環境変化に伴う新たなテーマに即応した人材育成を行うことを狙いとしています。

教育体系は、原則的に「階層別教育」と「部門別専門教育」に大別されており、各々に「必須教育」と「選択教育」が用意されています。必須教育には、昇格する為に最低限必要な教育や専門性を身につける教育があります。選択教育は、個人の自己啓発または上司指示(選抜型)に基づいた教育となり、自らの価値を高めることができます。中級(中堅)クラスの階層には必須研修を少なくして、自己啓発による向上心や挑戦意欲を促すようにしております。

●製造技術の伝承

イノアックグループでは、製造の技術(ものづくり)を後世に伝える教育を進めています。2008年からは「保全道場」を開設し、講義だけでなく実際に機械やモノに触れながら学ぶ体感実習を導入し、製造技術の伝承と現場教育に取り組んでいます。また、昨年(2009年)より現役班長クラス向けに管理監督者として必要な能力の向上を目的とする「製造部門監督者研修」を導入しました。この研修では、リタイアしたシニアを特別講師に招き、5ゲン主義(原理・原則・現地・現物・現象)で問題解決の実践力向上を目指しています。



技術伝承教育

人材育成(階層別教育)を受講して

管理職を対象とした上級組織活性化研修(階層別教育)を受講して、特に『10年後のありたい姿』が印象的でした。10年後に視点を置くことにより、現状の延長線ではない斬新なアイデアが生まれると同時に、表面上は変化しても芯は揺るぎない、方向性は間違わないということを学びました。また全体を通じ、環境分析や競合分析など企画化(戦略化)には欠かせない手法を多く学ぶことができ、今後の実際の業務に活用し実践したいと考えております。



グローバル技術開発部
西村嘉修

製造技術伝承教育(製造現場監督者研修)を受講して

この研修は『上位方針を理解し、自ら課題を設定し(現場の)問題解決及び改善を行う』という狙いでした。一言で『改善』といっても、4Sから始まりムダ・ロスの低減までいろいろな事項があり、奥の深さを認識しました。

講師の経験談から、いろいろな職場の例を挙げて、判りやすく教えていただきました。

研修で学んだ『作業のムダに着目する考え方』『現場を何度もじっくりと診ること』を実践して改善に取り組み、原価低減を推進させていきたいと思っております。



自動車関連製造部
伊藤善之



●両立支援のための制度

従業員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。育児休業規程では、子が2歳に達するまで育児休業取得可能とし、子の看護休暇は1人の場合は5日間、2人以上の場合は10日間特別休暇(有給)を付与しています。また、最長3年間(子が小学3年生までが対象)取得可能な「育児短時間勤務制度」を導入しています。

ほかにも、保育園・幼稚園・学校・自治体の家族に関わる行事参加、介護を必要としている人の病院・介護施設への付き添い等の理由で休暇を取得した場合、優先的に休暇を取得できるファミリーサポートホリデー休暇制度やフレックスタイム制度、配偶者出産時に取得できる5日間の特別休暇(有給)を設けています。

【育児休業等取得者数】

	2006年		2007年		2008年		2009年	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
育児休業		16		14		16		17
短時間勤務								8

【両立支援制度一覧】

配偶者出産休暇	1980年以前
フレックスタイム制実施	1990年
女性再雇用規程	1990年
介護休業規程	1990年
ハッピーホリデー休暇	1991年
育児休業規程	1992年
母性健康管理の措置に関する規程	1998年
半日有給休暇取得制度	2000年
ファミリーサポートホリデー休暇	2005年
子の看護のための休暇	2005年
育児休業規程改訂(休業期間延長)	2005年
育児短時間勤務制度施行	2008年

●キャリアアップセミナー

2007年には、Dr.坪田グルゾンを講師に迎え「キャリアアップセミナー」を実施しました。また、2008年には第2回「キャリアアップセミナー」を開催し、Dr.坪田グルゾンの時間管理術に関する講演会のほか、女性管理職の体験談、参加者とのディスカッションという盛りだくさんの内容で好評のうちに終了しました。



2006年、Dr.坪田裕子・グルゾンがイノアックコーポレーションの社外取締役役に就任しました。Dr.坪田グルゾンは、国際連合総本部総務部人事課部長補佐として、前国連総長アナン氏を補佐。その後、国際人材コンサルティング会社「ツボタ・グルゾン・マルチナショナル・TGM Group」を設立されました。1993年から1995年には在ニューヨーク女性実業家の会の会長に就任するなど、女性実業家としてリーダーシップを発揮。ドイツ人弁護士と結婚後、六男の母。



●イノアックグループ安全活動

①イノアック基本方針

人間愛を基本として、トップから従業員まで全員参加の安全・防災活動を推進し、安全に強い人づくり、公害ゼロ・災害ゼロの快適職場づくりを図る。

②イノアック安全・衛生月間活動

- 厚生労働省の運動行事に併せた活動
- 過去の災害に学んだ月次重点実施事項(毎月)
- 本年は特に「止めず災害の撲滅」

③全社安全衛生委員会の開催

- 社長を委員長とした中央安全衛生委員会を年4回と、役員点検年2回実施(主要工場)
- 実担者安全衛生委員会を年10回開催
- 工場内安全衛生委員会を月1回開催

④健康増進に向けた取り組み

- 産業医の毎月の工場巡視、安全衛生委員会での指導を月1回開催
- 相談窓口設置によるメンタルヘルスサポートの実施
- 事業所内の分煙化の徹底
- 快適職場作りとして、管理区分低減活動

⑤リスクアセスメント活動

- 停滞ぎみのリスクアセスメント活動を再出発の元年として活動
- イノアック各工場へ横展開



●防災活動

①大規模地震災害減災体制の確立

- 1) 建屋・設備・地震減災対策
 - 人命第一を基本とし建屋(震度6強)補強工事、設備、外構、什器の転倒・落下対策と出火防止対策
 - 重点設備：受電・ボイラ・ガス・原料タンク・危険物の停電対応・危険物流出防止
- 2) 地震発生時減災への備え
 - ハード・ソフト見直しと訓練(緊急連絡網・避難誘導・備蓄品・防災資材・通信等の設備)
 - 一部地震速報システム活用
- 3) 地震・災害発生後の対応
 - 発生後対応訓練(初動体制・復旧本部立上げ・避難訓練・連絡網整備など)

②火災・風水害対策

- 1) 生産現場の火災・防爆予防
 - 重点設備(加熱炉・集塵機・火災発生設備)の見える化と日常点検・管理強化
 - 危険物・可燃物管理の徹底・危険物可燃物取扱職場の見える化と防火対策
 - 火気使用工事の火災・防爆防止作業体制確立と安全作業の徹底
- 2) 風水害対応体制の確立
 - 防災機器の設備と管理体制の強化
 - 防災関連設備、危険物管理状態の定期監査とパトロールの実施



社会・地域貢献活動

●イノアック・イノベーションサポート

イノアックでは、「イノアック・イノベーションサポート」として、文化支援活動や競技サポート活動を行なっています。バレエやオペラ公演への協賛など、その内容は多彩です。

このような各種イベントへの協賛等により、文化振興に貢献するだけでなく、社会とイノアックの結びつきを一層深めることに寄与し、その結びつきが全ての地球市民の幸せと発展につながることを信じ、これからも積極的な支援活動を続けていきます。



1991年	第1弾：つがいけサイクル'91 第2弾：マジックショー「スノーピーの不思議な世界旅行」 第3弾：全日本オフロードサイクリングIN柵池
1992年	第4弾：ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団「ウィンナ・ワルツの調べ」 第5弾：試写会「ザ・スタント／アメリカ物語2」 第6弾：'92スタジアムトライアル
1993年	第7弾：ウィンナワルツ・オーケストラ 第8弾：マウンテンバイクフェスティバルINダイナランド 第9弾：スタジアムトライアル
1994年	第10弾：ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ 第11弾：イノアック IRCカップ
1995年	第12弾：レニングラード国立バレエ「白鳥の湖」 第13弾：イノアック IRCカップ
1996年	第14弾：ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場「メリーウイドウ」
1997年	第15弾：レニングラード国立バレエ「ドン・キホーテ」
1998年	第16弾：レニングラード国立バレエ「眠りの森の美女」
1999年	第17弾：ウィーン・カンマー・オペラ「こうもり」
2000年	第18弾：レニングラード国立歌劇場管弦楽団「華麗なるバレエ・ワルツの祭典」
2001年	第19弾：ブラハ国立劇場オペラ「魔笛」 〈東京公演・名古屋公演〉

2002年	第20弾：ハンガリー国立歌劇場「こうもり」 〈東京公演〉 ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場「チャールダーシュの女王」 〈名古屋公演〉
2003年	第21弾：ポーランド国立歌劇場「トゥーランドット」 〈東京公演・名古屋公演〉
2004年	第22弾：ローマ・イタリア歌劇団オペラ「椿姫」 〈東京公演・名古屋公演〉
2005年	第23弾：ハンブルクバレエ「眠れる森の美女」 〈東京公演〉 第24弾：チェコ国立ブルノ歌劇場「カルメン」 〈名古屋公演〉
2006年	第25弾：ブラハ国立劇場オペラ「フィガロの結婚」 〈東京公演・名古屋公演〉
2007年	第26弾：ハンガリー国立ブダペスト・オペレッタ劇場「こうもり」 〈東京公演・名古屋公演〉
2008年	第27弾：チェコ国立ブルノ歌劇場「タンホイザー」 〈東京公演〉 ウィンナワルツ・オーケストラ 〈名古屋公演〉
2009年	第28弾：レニングラード国立バレエ団「眠れる森の美女」 〈東京公演〉 レニングラード国立バレエ団「ジゼル」 〈名古屋公演〉
2010年	第29弾：ニューイヤーズスペシャルコンサート コルソ・ウィーン〈東京公演〉 ウィーン放送交響楽団〈名古屋公演〉

●財団法人イノアック国際教育振興財団

1950年代からグローバル展開を推進してきたイノアックは、世界に通用する市場価値をもった人材育成の必要性を痛感してきました。

そのため、グローバルに活躍する人材の育成を目的とした「イノアック国際教育振興財団」を設立しました。1987年の設立以来、中国、韓国をはじめ様々な国の優秀な学生の海外留学に奨学金を給付し、支援を受けた学生の人数は200名を超えます。こうした人材が将来世界を舞台にはばたくことは、イノアックの大きな喜びです。





●名古屋ゾンタクラブ チャリティーバザー寄付

国際ゾンタは1919年にアメリカニューヨーク州にて職業を持つ女性達によって創立された社会奉仕団体で、世界71カ国1300クラブ、約36000人の会員が女性の地位向上を目指し地域奉仕や国際奉仕のために、ボランティア活動をしています。

イノアックでは、名古屋ゾンタクラブの活動に賛同し、関連会社イノアックリビングを通じて、第33回チャリティーバザーへ協賛を致しました。バザー収益金は国際・国内の奉仕活動に活用されております。



●小・中学校児童生徒の工場見学や体験学習

安城事業所では、今池小学校の3年生児童と先生を招いて工場見学を開催しました。ショールームでイノアック製品を見学後、研修室で会社概要を聞き、ウレタンフォームの簡易的な発泡実演やバナナやニンジンなどの型スポンジを見て、たくさんの質問がありました。後日、参加された児童からはものづくりに対する楽しさを感じた等、多数の手紙をいただき、当社としてうれしく感じております。

桜井事業所では、最寄りの中学校からの代表生徒が、6月と10月にそれぞれ職場での体験学習を1週間にわたり行いました。



質問する児童



簡易発泡実演

●AED講習会

安城事業所では、安城消防署から講師を派遣いただき、20名強の従業員がAED(自動体外式除細動機)講習会を受講しました。訓練用人形を使用して、心肺蘇生法の基本動作やAEDの取扱いなどを訓練しました。

今後も講習会を繰り返す事によって、万が一に備えていきたいと思っております。また、事業所内およびその周辺、警備員などがその対応が出来るよう努めて参ります。



AED講習会

※AED設置事業所

安城事業所	桜井事業所
南濃事業所	池田工場
池田第2工場	大野工場



お客様との関わり



●お客様満足度アップを目指した営業活動

イノアックグループの営業部門は、「暮らしをもっと豊かにしたい」という企業理念に基づき、お客様満足の向上を全ての行動規範として活動を続けています。また、お客様の声を直接お聞きするための顧客満足度アンケートは、私どもの活動に一つの指針を与えています。これからも、変化し続けるお客様のニーズに、グローバルかつ迅速にソリューションを提案し、お客様との強い信頼関係を築いて参ります。

●お客様からの評価・受賞

イノアックでは、世界のお客様にご満足いただける製品の供給を目指しております。

国内においては、コスト協力と新製法・新材料の積極的な開発を評価されての受賞や、海外の拠点におきましても品質優秀賞を受賞するなど、世界のお客様より評価をいただいております。

今後ともQuality(品質)・Cost(コスト)・Delivery(デリバリー)・Safety(安全性)でお客様より高い評価を得られるように体制の強化に継続して取り組みます。

品質向上を実現する取り組み



●QC改善世界大会

イノアックグループとして1985年から開始したQC改善世界大会は、高い品質のものづくりを実現させる為の活動として、継続して年1回行なっています。

生産性や業務効率の向上、品質改善を推進する為に、各職場で従業員が数人のサークルをつくり、テーマ登録をおこない活動をします。その活動を各部門(会社)での発表会および予選ブロック大会で報告をおこないます。

2009年度のQC改善世界大会はグループ会社・系列合弁会社・海外・協力会社様など、60事業所(部門)から選抜された8サークルが発表をおこない、約200人の聴講者とともに、活発な議論がおこなわれました。

これからも、QC改善世界大会のレベルアップに取り組み、品質改善にはもちろんのこと、各従業員の能力の向上と職場の活性化に取り組んでいきます。



発表の様子



表彰式